２０２０年9月１３日

「汝　尚一つを欠く」

マルコによる福音書１０章１７－２２節

森島　牧人　牧師

文語体聖書による今日の印象的な説教題は、「富める青年」としてよく知られた話の中で語られた主イエスの言葉です。その場面は、旅に出ようとされている主イエスのところへ一人の男が走り寄って来てひざまずき、「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」（マルコ 10：17）と尋ねるところから始まります。それに対して主は、「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもいない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」（同 10：19）と、十戒の後半部分を挙げて言われます。それを聞いた男の答えは「先生、そういうことはみな、子供の時から守って来ました。」（同 10：20）というものでした。この走り寄って来た人物は、他の福音書によれば青年で、役人とあることから、相当な資産に加えて地位や名誉も兼ね備えた若い男、しかも彼は、宗教的な熱心さや倫理的な真面目さも持っていました。そんな好青年の彼が、最大の敬意を払って主の前にひざまずき「善い先生、・・・」と呼びかけ教えを乞うたのに対して、主の「なぜ、わたしを『善い』というのか。」との突き返すような返答は、ちょっと腑に落ちない気がします。この部分はマタイ福音書によれば、彼の問いは「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」（マタイ 19：16）というものでした。青年のこの「どんな善いことをしたら・・・」との問いに対し、主イエスの言われたのは「＜善い＞は神にのみ在るもの」であり、「誰が善い方かを尋ね、その善い方を信頼することに救いはある」というものでした。このやり取りが、彼が神との関係を持つことに直結するとの思いが、主にはあったのです。

この問答の後、ご自分の前にひざまずく青年を、優しく見つめて言われたのが「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。」（マルコ 10：21）でした。この御言葉を読むと、救われるためには戒めを守り、善行を積み、財産も手放さなければならないと言われているようで、今まで私たちが聞いて来た福音信仰とは違うように思えます。これは奇妙なことです。問題はこの青年の「救われるために何をしたらいいか」という問いにあるようです。彼が問うたのは「自分が守り増やしてきた富と倫理的に胸の張れる今までの生き方の上に、さらに何を積み重ねたら救われるのか」ということでした。そんな彼への主のお言葉、「汝 尚一つを欠く」は、「自分の富や倫理的な行いという無力なものを恃みとする自分自身を捨て、善き方である神を信頼して、救い主であるわたしに従うというその一点において、あなたは欠けている」との慈しみに満ちた諭しでした。しかし、「行いが無力でないのなら、持っているものすべてを売って貧しい人々に施しなさい」との主の言葉に青年は気を落とし、悲しみながら立ち去ったと、聖書は記しています。主が救い主であると告白し、主の体なる教会に加わることが、自分を捨てるということの具体的な表現なのです。それは、自分にしがみつこうとする生き方ではなく、いつも自分を見ていてくださる方を信頼する生き方なのです。　（説教要約　羽入田悦子）

＊＊＊ ひとこと感想　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

①善い方とは誰か、どんな善いことをしたらよいか。善い方は神ただ１人である。分からないことをなんでも聞くのではなく、私たちは主イエスに従うのみだ。（Y）

②「三共観福音書にほとんど同一の記事として取り上げられてあるということは新約聖書の真髄、核心と言うべき箇所の一つなのでしょうか。主イエスの教条的な律法主義（ひいては旧約の世界）への訣別の宣言と受け取りました。」（T）

③お話をお聞きしながら、青年のような財産も立派な行いも無いのになお我が身を恃みとする不信仰が私自身の中にあるということかと恐ろしくなりました。主イエスの青年を慈しまれる様子から、立ち去った青年が、ある日卒然として主の御言葉の意味するところに思い至るということがあったのでは、、、あって欲しいと思ったことでした。（E）